



## 小島友実の あの馬の STORY

### シルヴァティカ



2023年5月20日・東京 初勝利のウイナーズサークル

古賀慎明厩舎に所属し、活躍中のシルヴァティカ。1歳馬募集時に古賀調教師が「バーフィングが良いと、牝馬でありながらしっかりした馬体の持ち主だなと感じました。樂しみで」と高評価していた馬です。その期待に応えて「14」マーク戦目となりた東京ターミナル競馬場で初勝利をマークしました。今回ばかりの過程で今後の展望など伺います。

シルヴァティカは5月25日の中山ダート1800m戦で「14」マークで着ました。スタート一発で息でしたが、後半はじわじわ伸びてきましたね。経験を積めば、良いなつむぎだと感じました。

2戦目しないたち4月1日の中山ダーティー800m戦で「14」マークで着ました。「扉が開く音に驚いて出遅れたものの、一の足もつま、初戦からの成長を感じました。4コーナーで外にふくらんだ分、口戻してしまったが、スタートより掲示板まであつかましれませんでした」

そこで、3戦目は東京ターミナル競馬場で戦いましたが、スタートより掲示板まであつかましれませんでした。

「スタートはペースでいいのか、レント力が足りなくてダッシュがつきません」とでした。たたか前半は我慢した分、直線で良い脚を使ってくれましたね。これが、なり勝利は近いところ手応えを持ちました」

その言葉通り、5月20日の東京ターミナル競馬場で初勝利を手にしました。

「思い切ったやり、良い位置を取りました。デビューウー戦からおひいきの馬に乗っている北村宏司騎手がうまく立ち回つてくれて、逃げ出しのタイミングで良かったです。

およね。体が本格化するのではなく先だと思っていた中、4戦目に勝ちてくれたので、思つていたよりボトムキャラクターが上がつてしまい感じました」

初戦から4戦目まで、厩舎に滞在調整されてきたこともあります。初勝利後は山元トレセンに放牧。リフレッシュ効果もあり、期待された5月30日の中山ダーティー800m戦(1勝2戸)に着ました。

「スタートしてから完歩田に向むかうのが大きかったです。途中もキックバックを気にしていました。でもから調教で対策をしてみました」

そこで、「こんな対策が取りれていました。北村騎手からの過去に、キックバックを嫌がる馬にホライゾンネットを着けたら、効果があつた例があつたんですね」と話がありましてね。それで、4戦目後の調教からホライゾンネットを着けようとしていました。調教の動きを見ている限り、ホライゾンネットを着けた感じはあります。レースでキックバックを嫌がる馬が、ホライゾンネットを着けたことで解消されて、レースでの追走が楽になる一助になればいいなと思います。1勝づラスのスタートに慣れてこなければ、次の勝利が見えないかもしれません」

まだスタートに慣れぬままでも話していました。

「5戦目の時、1完歩田は出られてしまおかなれ。今後、背腰やトモがしつかって止まらなくなったりするので心配しています」

可能性を持った馬です。母のペティクラークは私が調教助手時代に所属していました藤沢和雄調教師が管理していた馬。縁がある血統で、シルヴァティカに成長をもたらす力がいる印象です。まだ成長をもたらす力も出しながら、少しだけ力を發揮できる舞台を走らせてあげられるよう、調整していきますですね」

一戦ごとに力をつけた印象のシルヴァティカ。今後も目標の末脚に磨きをかけていき、さらなる高みを目指してまいります。期待しますね。

(電話取材：11月1日&13日)

競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（王婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。

profile